

三学年 国語科 前期期末試験 二〇二三年九月八日(金)

【一】 次の傍線部のひらがなは漢字で書き、漢字は読み方をひらがなで書きなさい。「1点×20」(知識)
送りがなが必要な場合は、それも含めて書くこと。楷書ではつきりとていねいに書くこと。

- | | | | | | |
|----|-------------|----|-------------|----|-------------|
| 1 | ほうていで証言をする。 | 2 | そしうの手続き。 | 3 | せいやく書を提出する。 |
| 4 | さぎ師が捕まる。 | 5 | 毎日いそがしい。 | 6 | まさにじごくで仏だ。 |
| 7 | 他チームにいせきする。 | 8 | 実力はくちゆうの試合。 | 9 | らいひんを迎える。 |
| 10 | おさない妹がいる。 | 11 | こうてい的な発言。 | 12 | けんきよな姿勢で臨む。 |
| 13 | 文明はつしようの地。 | 14 | 結婚ひろう宴を開く。 | 15 | 力をたくわえる。 |
| 16 | 収賄罪に問われる。 | 17 | 犯人を拘置する。 | 18 | 最近覇氣がない。 |
| 19 | 弔問に訪れる。 | 20 | 平安京に遷都する。 | | |

【二】 次の空欄を漢字に直し四字熟語を完成させなさい。「1点×8」(知識)

- | | | | | | |
|---|-------------|---|-------------|---|-------------|
| 1 | いく 同音の返事。 | 2 | 五里 むちゆうだ。 | 3 | ぜったい 絶命の危機。 |
| 4 | たんとう 直入に聞く。 | 5 | はんしん 半疑で聞く。 | 6 | 優柔 ふだん な性格。 |
| 7 | 危機 いっぱつの所だ。 | 8 | しゅしゃ 選択する。 | | |

【三】 次の文法に関する各問いに答えなさい。「1点×20」(知識)

問 一次の各文から、活用のある自立語を抜き出して答えなさい。

- 1 満員の電車に乗る。
- 2 今日の海はとても穏やかだ。
- 3 机の上に一本の鉛筆がある。
- 4 寝不足は体に悪いそうだ。

問 二次の各名詞の組み合わせのうち、種類が異なるものを一つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|-------|-------|---------|--------|
| 1 | ア 駅 | イ 富士山 | ウ ボール | エ 水族館 |
| 2 | ア 第一回 | イ 四本 | ウ 五階 | エ 午後 |
| 3 | ア 徒然草 | イ 本屋 | ウ 追浜中学校 | エ 横須賀市 |
| 4 | ア そと | イ どこ | ウ こちら | エ これ |

問 三次の各文の傍線部のうち、副詞である方を選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|---|-----------------|-----------------|
| 1 | ア 時間はすでに一時を過ぎた。 | イ 軽やかにステップを踏む。 |
| 2 | ア 靴ひもをしつかり結ぶ。 | イ 解き方をくわしく説明する。 |
| 3 | ア 急に都合が悪くなった。 | イ 星がきらきらと輝く。 |

問 四次の各文の傍線部のうち、連体詞である方を選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|---|------------------|--------------------|
| 1 | ア 大きい声援がとびかっている。 | イ 大きな声援を受けて奮闘する。 |
| 2 | ア ある会社に就職が決まった。 | イ 吾輩は猫である。名前はまだない。 |
| 3 | ア 大空をとんだ鳥の写真がある。 | イ とんだ恥をかいてしまった。 |

問 五次の各文の傍線部の接続詞の種類を後から選び、記号で答えなさい。

- 1 勉強を終え、それから、遊ぶ。
- 2 雨が降った。しかし、大会は実施された。
- 3 鉛筆または消しゴム、どちらが好きですか。
- 4 休んでもよい。ただし、条件がある。
- 5 宿題が終わった。さて、本を読むか。

ア 順接 イ 逆接 ウ 並立・累加 エ 対比・選択 オ 説明・補足 カ 転換

問 六 次の各文の傍線部のうち、感動詞であるものを選び、記号で答えなさい。

- ア こんにちは、お元気ですか。 イ 先生、これは何と読むんですか。

【四】次の文章は「学校紹介のパンフレットのデザインを決めよう」というテーマの話し合いの一部であるが、「A」は課題がある話し合いで、「B」は話し合いの後半で「話し合いのこつ」を使って改善された内容である。これらを読み、後の各問いに答えなさい。

【A..改善前】

石原 学校紹介のパンフレットの表紙は、毎年三年生の案が採用されているらしいよ。
野村 そういえば、僕たちも小学生のころ、体験入学のときに写真入りのパンフレットをもらったね。
田中 ああ、なんか覚えてるよ。正門に植えられている桜の木が載ってたよね。
松山 みんなよく覚えてるね。僕はすっかり忘れちゃってるよ。
石原 じゃあ、今年は印象に残る表紙にしないとね。
田中 やっぱり、写真は私たち三年生のを使ってほしいよね。
野村 うんうん、部活動の写真とかが載っていると、ワクワクしそう。
松山 部活動だったら、野球部がいいかな。
田中 いや、そこはやっぱり吹奏楽部でしょ。
石原 どちらも有名な部活だけど、中学校は勉強するところだから、教室の写真の方が良いんじゃない？ パンフレットは、地域の人も見るかもしれないし。
野村 そうしたら、「学びに真剣」という言葉を入れても良いかも。
石原 いいね。校長先生がいつも言っている言葉だもんね。
松山 勉強以外の言葉も入れた方が良さそう。「楽しい毎日」とかさ。
田中 そうそう。運動会の玉入れの写真とか、楽しい感じが伝わりそうだよ。
野村 ああ、去年の運動会楽しかったよね。
松山 そうそう、騎馬戦がすごく盛り上がったよね。
石原 うーん。①どれも良い考えなんだけど、なんか混乱してきた感じがするのは私だけ？

【B..改善後】

(前半省略)

石原 じゃあ、②印象に残る表紙にするために、話し合う順番は、キャッチコピーを先にして、その後で写真について考えようか。
野村 それがいいね。パンフレットを読む人には、この学校の魅力を伝えたいな。
松山 そうだね。僕たちの学校の魅力って何だろう。部活動が活発だよ。
田中 でも勉強も頑張ってるんじゃない？ みんな積極的に授業に参加しているよね。
石原 だったら、「文武両道」みたいな言葉が良いかな。
野村 たしかに、「文武両道」っていう言葉はぴったりだよ。でも、他の案ももう少し考えてみようか。
松山 「文武両道」って、英語だと何て言うんだろう？
田中 私、電子辞書持ってるよ。調べてみるね。
松山 わー、その電子辞書かっこいいね。どこで買ったの？
石原

a

松山 ごめんごめん。
野村 「両道」っていうのを少し変えて、「二刀流」っていうのはどうかな。
松山 いいね。勉強と部活の二刀流って、かっこよくない？
田中 それすごくいい。私も賛成。
野村 僕も賛成。石原さんはどうかな。
石原 私もそれが良いと思う。
野村 ③じゃあ、キャッチコピーは、「勉強と部活の二刀流」で決まりだね。
石原 ④キャッチコピーが決まったから、ここからは写真について考えようか。
田中 左右に分けて、授業中の写真と部活動の写真を並べるのはどうかな。
松山 うんうん、それぞれ考えてみよう。

問一 傍線部①のように石原さんが感じたのはなぜか。簡潔に説明しなさい。「3点」(話す・聞く)

問二 空欄aには、話し合いの軌道修正をする発言が入る。それを考えて二文で書きなさい。

「3点」(話す・聞く)

問三 傍線部②・③・④で使われている「話し合いのこつ」として最も適切なものを、次からそれぞれ選記号で答えなさい。「2点×3」(話す・聞く)

ア 質問 イ 展開 ウ 軌道修正 エ 計画 オ 反論 カ 整理

五 次の文章を読み、後の各問いに答えなさい。

八重桜の濃いピンク色に、真昼の光線が反射する。まぶしいほどの色調が辺りに漂い、胸が騒ぐ。いい歳をして……と、自分を叱咤しながらも、そよ風でゆりかごのように揺れる花にじっと見入っていた。明るい声が響いて我に返り、振り向いた。二十歳そこそこの若い男女が夢中で話しながら、太い幹の向こうから近づいてきた。手にした本の中身を論じ合っているようだ。ぼんやりとたたずんでいた①私を彼らはちらりと見て通り過ぎていった。

それでも私はなんだかうれしくなった。最近の若い人には夢がない、と耳にすることがある。けれど、すれ違った彼らには、あふれんばかりの希望や夢があるように感じられたからだ。

希望というのは、人間が生きるための大きなエネルギー源といえるだろう。だからこそ絶望は、死につながる人が多い。

「私が生き延びられたのは、希望を失わなかったからです。」

希望についてしみじみと、そう語ったポーランド人のスタシヤックさんを思い出す。彼は、第二次世界大戦中の「夜と霧作戦」で逮捕されたユダヤ人だ。

霧の深い闇夜に忍び寄って逮捕する、というヒトラーの作戦は、未曾有の大量虐殺へと突き進んだ。「最終的解決」の命令によって、ユダヤ人の六百万人ともいわれるすさまじい数の命が抹消されたのだ。

僅かだが生還できた人たちがいる。誰かに会いたいと思い、一九八六年の夏に、初めてポーランドを訪れた。今と違って冷戦時代のまった中であり、ソ連当局の険しい視線がポーランド国民に（そして私の言動にも）注がれていた。そうした中にも、諦めることなく自由を求めて努力する人々の張りつめた生き方に、身を引き締められる思いがした（その後、何度か訪れているうちに東西の対立が崩れ、人々は束縛から解かれた）。

スタシヤックさんは半世紀前、ナチスの狂気と残虐性を象徴するあのアウシュビッツ絶滅強制収容所を脱出し、数人の仲間と一緒に村人にかくまわれて、やっと自由を得た。

彼の妻エルナさんは、その村の娘だった。彼女はユダヤ人ではなかったが、②ナチスの余りにもむごい残虐な行為を黙って見過ごせなかった。

「私が助けたのは、塩のためでも、土地のためでもなかった。金銭をもらうためではなかったということ。何よりも、心の痛みに耐えきれなかったからです。」

そういうエルナさんにスタシヤックさんの第一印象を尋ねると、衝撃を思い出すようにこう言った。

「③彼は目もよく見えないようだったし、歩き方もよたよたしていて、五十歳くらいかと思いました。殺害、餓死、病死などの恐怖と直面させられていた④スタシヤックさんは、いったいどのような生活

を送っていたのだろうか。」「多くの人たちが連合軍が助けてくれるとか、神が救ってくれるとか、他の力に期待していました。でも私には、希望だけが大切でした。人間は⑤鋼鉄のように強い神経をもっている。その神経に絶えず希望という⑥小川が流れている限り、人間は耐えられるのです。」

おろん運もある。が、それだけではない。強い意志と人間への信頼感、それに友達の助け、生き残れるという自信も必要だった。また、労働の現場が屋根の下だったか外だったかも生死を左右したと、生還した人たちは口々に語ってくれた。

戦後、腕に刻まれた青黒い囚人番号を抱えながら、スタシヤックさんは新たな希望と使命感に燃えて政治家になった。が、まもなくさまざまな圧力を受けて、学者の道を選んだ。

「私にとってかけがえのないものは、孫娘のカロリーナです。私が生還できたことの証明と、未来の希望が彼女にはあるからです。」

八重桜のたもとを通った若者たちの後ろで、花卉が舞った。花に向けたレンズの焦点を合わせていると、ファインダーの中にほほえむカリリーナが見えたような気がした。（大石芳野「希望」）

問一 傍線部①「私を彼らはちらりと見て通り過ぎていった」とあるが、筆者は「彼ら」には何があると感じたか。「がある」につながるように文章中から十二字で抜き出して答えなさい。「2点」（読む）

問二 傍線部②「ナチスの余りにもむごい残虐な行為を黙って見過ごせなかった」のはなぜか。文章中から十五字で抜き出して答えなさい。「2点」（読む）

問三 傍線部③「彼は目もよく見えない」五十歳くらいかと思いましたが、この表現は何を象徴しているか。文章中から十字で抜き出して答えなさい。「2点」（読む）

問四 傍線部④「スタシヤックさんは、いったいどのようなようにして生き延びたのだろうか」とあるが、筆者は、スタシヤックさんが生き延びた理由をどのように考えているか。「期待」「希望」という言葉を必ず使い、二十五字以上三十字以内で書きなさい。「3点」（書く）

問五 傍線部⑤「鋼鉄」⑥「小川」は、それぞれ何をたとえているか。それぞれ文章中から抜き出して答えなさい。「1点×2」（読む）

問六 ナチスから逃れたスタシヤックさんの希望は、具体的にどのようなように変化していったか。時系列の順番に三つ、文章中からそれぞれ三字以内で抜き出して答えなさい。「完答2点」（読む）

問七 この文章を通して、筆者はどのようなことを伝えたかたと考えられるか。最も適切なものを次から選び記号で答えなさい。「2点」（読む）

ア これから先、良いことがあるに違いないという信念を持ち続けることは生きる力になること。
イ 困難を自分の力で乗り越えろという経験は、その後の人生を成功に導くための力となること。
ウ 自分の力には限界があると認識し、他者の力に頼ることも生きていくうえで必要であること。
エ 信頼できる家族や仲間は、自分とともに生きていくことができるかけがえのない存在であること。

六 次の文章を読み、後の各問いに答えなさい。

斧入れて香におどろくや冬木立 与謝 蕪村

「香におどろく」ってどういう意味だろうと思ひながら、教科書を両手で持ち、大きな声で読みました。「おのいれて、かにおどろくや、ふゆこだち。」声に出したとたん、①いきなり新しい木の香りがツーンと押し寄せてきました。余りに新鮮な匂いだったので、ひどく驚きました。キョロキョロ見回しても窓は閉まっているし、教室はいつものとおりだし。「着席していいですよ。」という先生の声で椅子に座ってから、やっと気づきました。ドキドキするほど鮮烈なこの匂いは、私の鼻腔の奥から匂っているのだとわかったのです。

なぜそんなことが起こったのか、中学生の私には全く理解できませんでした。が、大人になり俳句を作るようになってから、あの日と同じ肉体反応を何度も体験するに至り、それが季語の力によるものだとかってきました。季語は五感情報のかたまりです。「冬木立」は、単に冬の木という意味を伝えるだけでなく、背後にある冬の青空や暗い雲（視覚）、冷たい風や堅い幹（触覚）を感じさせます。冬鳥の声（聴覚）を聞きとめる人もいるでしょう。そして「斧入れて」という動作、「香におどろくや」という発見が、「や」という切れ字を置いて描かれることによって、読者は、枯れているような冬木に斧が入ったとたんに放たれる木の香りを鮮やかに追体験します。俳句はたった十七音で五感をなまなましく刺激する力をもった類いまれな文学なのです。（夏井いつき「俳句の世界」より）

- | | | |
|---|-----------------|--------|
| A | 囀りをこぼさじと抱く大樹かな | 星野 立子 |
| B | 菜の花がしあはせさうに黄色して | 細見 綾子 |
| C | 万緑の中や吾子の齒生え初むる | 中村 草田男 |
| D | 芋の露連山影を正しうす | 飯田 蛇笏 |
| E | いくたびも雪の深さを尋ねけり | |
| F | 小春日や石を噛み居る赤蜻蛉 | 村上 鬼城 |
| G | 分け入つても分け入つても青い山 | 種田 山頭火 |
- （「俳句十句」より）

問一 傍線部①「いきなり新しい木の香りがツーンと押し寄せてきました」とあるが、このときの筆者の体験は、何によるものだったか。文章中から四字で抜き出して答えなさい。「2点」（読む）

問二 筆者は俳句のどのようなところが魅力だと語っているか。「十七音」「読み手」「再現」という言葉を必ず使って、三十五字以上四十字以内で書きなさい。「3点」（書く）

問三 Aの俳句について、次の問いに答えなさい。

- 1 この俳句に用いられている表現技法を次から選び記号で答えなさい。「1点」（読む）
- ア 擬人法 イ 体言止め ウ 反復法 エ 対比 オ 破調
- 2 「こぼさじと抱く大樹かな」から、「大樹」はどんな様子だと考えられるか。「様子」につながるように十字以内で答えなさい。「2点」（読む）

問四 次の文は、秋月さんによるBの俳句の鑑賞文である。空欄1には当てはまる季節を漢字一字で書き、空欄2と3に当てはまる言葉はBの俳句から抜き出して答えなさい。「1点×3」（読む）

菜の花が咲いているので、季節は1です。菜の花が2「だ」という表現には擬人法が使われていますね。3「という表現からは、作者が菜の花を視覚的に捉えて、感動している様子が分かります」といいます。

問五 Cの俳句について、次の問いに答えなさい。

- この俳句には、どの色の対比が見られるか。次の空欄に当てはまる色を漢字一字で答えなさい。
・一面の a 色と、幼い子どもに生えてきた齒の b 色との対比。 「1点×2」(読む)
- この俳句からは、作者のどのような気持ちが読み取れるか。「気持ち」に続くように十字以内で答えなさい。「2点」(読む)

問六 Dの俳句は、作者がどのようなところに感動を覚えて詠んだと考えられるか。最も適切なものを次から選び記号で答えなさい。「2点」(読む)

ア 目の前の広大な里芋畑の中に、遠くに連なる山々の影が落ち、規則正しく伸びているところ。
イ 遠くに連なる山々の広大さにより、目の前の里芋の葉のかわいらしさが際立っているところ。
ウ 目の前の小さな芋の露がかすんでしまうほど、遠くに連なる山々の風景が見事なところ。
エ 目の前の秋らしい風景の向こうの澄んだ空気の中に山々の姿がはっきりと見えているところ。

問七 Eの俳句の作者名を漢字で書きなさい。「1点」(知識)

問八 Fの俳句について、次の問いに答えなさい。

- この俳句は冬の句であるが、季語と切れ字を答えなさい。「1点×2」(読む)
- この句に詠まれている情景として最も適切なものを次から選び記号で答えなさい。「2点」(読む)
ア 初冬まで飛んでいた赤蜻蛉が、石にすがりついて暖をとるようにじっとしている様子。
イ 秋なのに春のように暖かい日、赤蜻蛉が石の上でのんびりと日なたぼっこをしている様子。
ウ 秋の終わりまで生きていた赤蜻蛉が、石の上で秋の終わりを惜しんでいる様子。
エ 小春日和の日に飛んでいた赤蜻蛉が、温かい南方に飛ぶために石の上で休憩している様子。

問九 次の対話文は、Gの俳句についての話し合いの様子である。空欄1・2に当てはまる言葉を後からそれぞれ選び記号で答えなさい。「空欄1…1点 空欄2…2点」(読む)

加茂 この句には季語がないし、五・七・五の定型になっていない。こういう句が「無季俳句」
「1 俳句」と呼ばれるんだよね。

秋月 「青い山」が季語じゃなかったことに驚いた。僕はこの語からさわやかな感じを受けていたんだ。

大井 僕はちよつと違う考えをもっているよ。息苦しいほどに色濃く生い茂った山のように感じられたよ。「大いに生い茂った」なんちゃって。

杉浦 (大井……。お前また……。)

加茂 うっそうとしているってことかな。うっそー。でもどうして?

杉浦 (え? 加茂さんまで?)

大井 「分け入っても分け入っても」から句が始まっているからかな。この反復法による表現は先が見えない様子を表している気がして。さわやかというよりは、うっそうとした感じを受けたんだ。

杉浦 う、そうか。確かにそうかも。「かも」だけに。いや、何でもない。句をもう一度読み直したら、2 作者の姿が浮かんできたよ。

杉浦 (自分もついにそっち側に……。)

秋月 ようこそ、杉浦くん!

【空欄1】ア 主旋律 イ 自律 ウ 自由律 エ 法律 オ 規律

【空欄2】ア 神や仏の住む世界の美しさを知る

イ 解決できない悩みや問題を抱えた
ウ 新しい発見による喜びを表現する
エ 広大な宇宙の神秘に思いをはせる